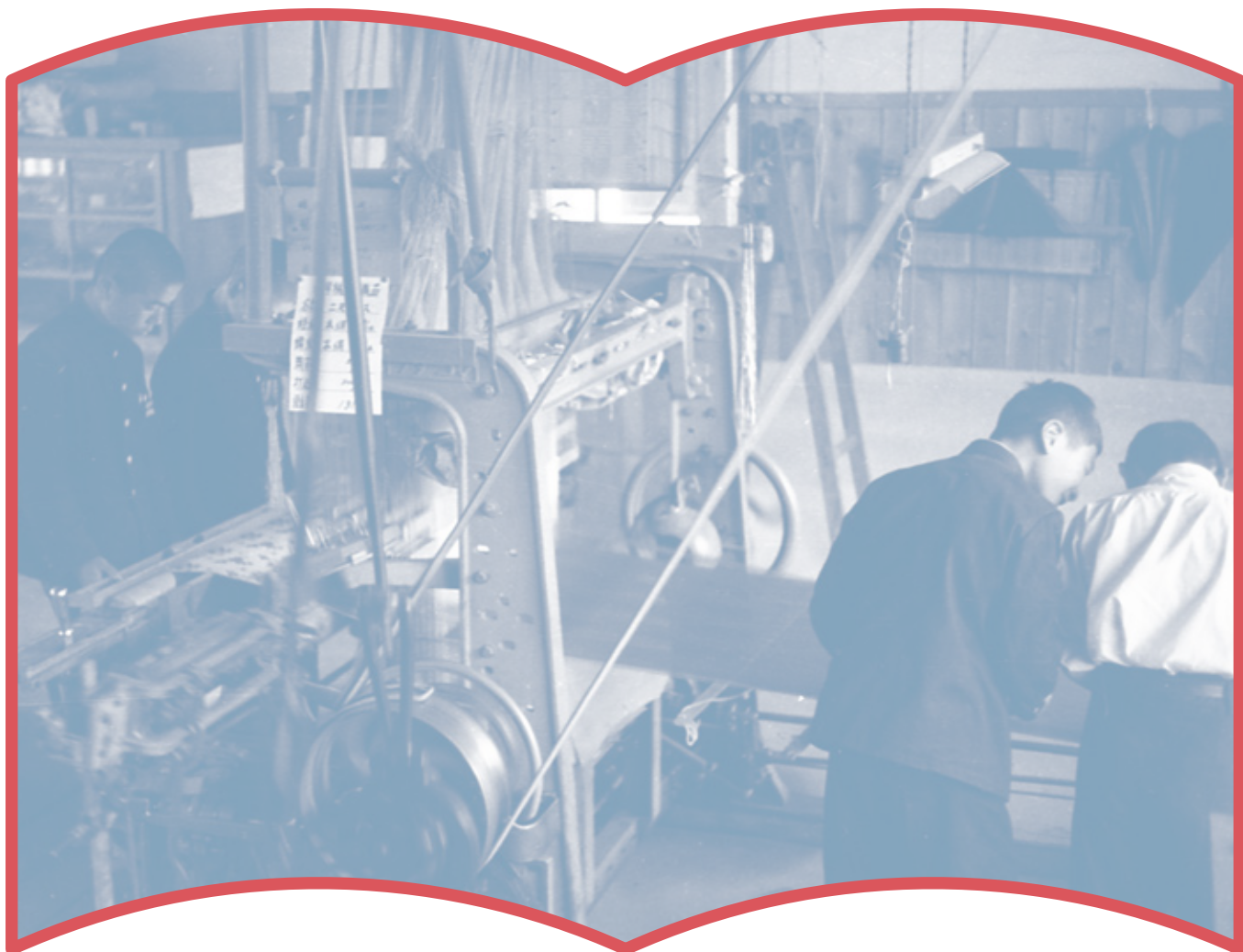


ふじさんミュージアム企画展

ぼくたちの織物語展



あの頃を思い出す、言葉と写真の記憶。

主催：ふじさんミュージアム

会期：2026年2月21日（土） - 5月18日（月）



はじめに

古来から続く織物産地である富士吉田市。この地域の地場産業を支えてきたのは、家族経営を主体とした小さな工場でした。そしてそれらのほとんどが家屋に隣接し、人々の生活のすぐ近くに織物がありました。

糸づくりから機織り(生地づくり)まで、織物に必要な全ての工程を富士吉田市内で行えることが産地の特徴のため、生産量が最盛期であった昭和時代には多くの人々がどこかで織物に関わる生活をしていました。

本展示では、地場産業である織物を仕事としていた大人たちをすぐそばで見つめていた子供たちの視点に立って、当時の記憶から見えるリアルな織物生活史を、物語のようにご覧いただく展示です。



本企画展を開催するにあたり、多くの団体・富士吉田市民の方々に情報提供や資料提供のご協力をいただきました。この場をお借りして、御礼申し上げます。

【情報提供等のご協力をいただいた皆様】

東京大学都市デザイン研究室 様 / 富士吉田市役所 様 / 山梨県富士技術支援センター 様

荒井美恵子 様 / 加々美好 様 / 滝口伸一 様 / 田辺丈人 様 / 萩原美奈枝 様

堀内茂利 様 / 武藤智恵子様 / 武藤ヒロミ 様 / 渡辺竜康 様 / 渡辺太郎 様

ぼくたちの言葉

こちらの展示では、幼少期に『織物がある暮らし』を過ごした方々から集めた、日常の実体験を9つご紹介します。織物が家業だからこそ体験できる出来事や印象的な言葉の数々を当事者のリアルな表現・言葉づかいでご覧いただきます。ちょっと笑えて、ちょっと温かい、そんな物語のワンシーンをぜひ想像してみてください。

染色ボーイ

織物工場よりも危険な仕事が多い染色屋。
そこで家業を手伝ってる小学校高学年から
中学生くらいの男子たちは「染色ボーイ」
なんて呼ばれてたよ。

停電日

月に二回だけの、工場の休日は
「停電日」と言われてて。
旅行に連れて行ってもらったり
するんだけど、旅先で会うのは
知り合いばかり。
工場はみんなお休みですもんね。

工場でローラースケート

鉄筋コンクリートで作られた織物工場は
ミニ体育館みたいな感じでね。
ローラースケートなんかしましたよ。
すごい滑りやすくて。

桴を折ったら

米が切れてしまった状態を指す「桴^ひを折った」
という言葉。「桴を折った」ら、米と米を繋げる
途方も無い作業が待っている。
父親がその言葉を発したら、もうその瞬間に
楽しい予定が台無しになることを
意味していたよ。

糸耳分けっこ

織物の左右の端を織るために使う糸耳いとみみというのがある。すごい量なんです。

その仕分けを親戚中が集まって

十人がかりでやるんです。

大変だけど楽しかったな。

うおー！

常に騒がしい工場。「ご飯だよー！」

と叫ぶと周りの家に聞こえて

恥ずかしいからね。うちでは

「うおー！」と、ドアを挟んだ

お勝手から叫んだりしてました。

工場トロツコ

工場の中に、大きな糸の束を

引っ張るためのトロツコが

ありました。

親が仕事中でも、わたしは

よくそれに掴まって

遊んでました。

重し代わり

濡れ巻ぬまきという技法で糸に重しを

乗せて水分を飛ばす時、

乗せる重しがないときは、

そこらの子供をひよいと乗せて

重し代わりにされてたよ。

お巻きに手巻き

工場で親が全然遊んでくれなくて、糸を巻きとる

「お巻まき」っていう大きな機械に手を置いて

じっと親の仕事見てたら、知らない間に手も

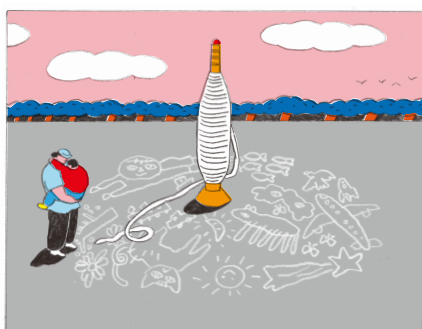
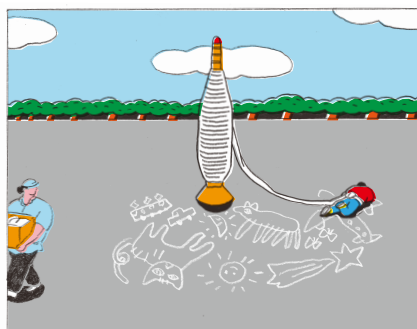
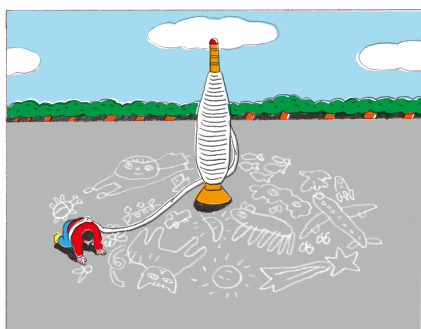
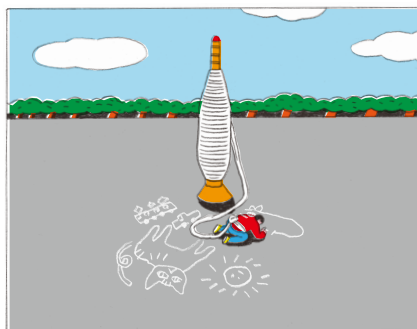
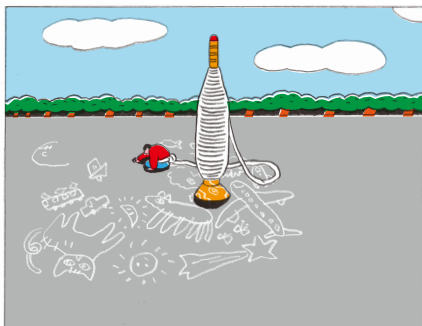
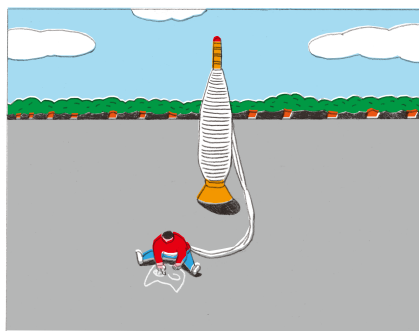
一緒に巻かれてたんです。

ぼくたちのアルバム

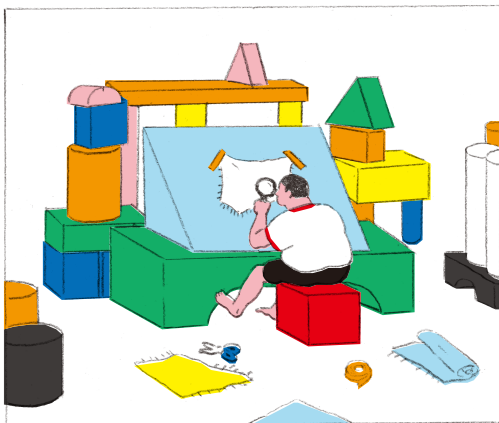
こちらの展示では、『織物がある暮らし』を過ごした方々から集めた実体験の中で、特に“あるある”として多くの方が同じような体験をしたエピソードを4つ厳選して、イラスト漫画付きでご紹介します。エピソードを提供いただいた方へのインタビューメモや写真、史料とともに、その記憶の背景や当時の様子を想像しながら、アルバムをのぞいてみてください。

※イラスト漫画は演出のため一部脚色を加えています

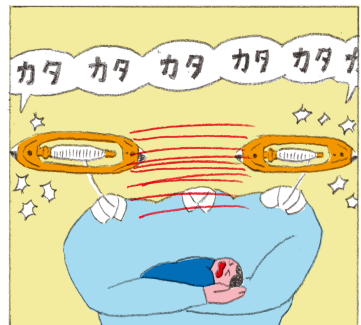
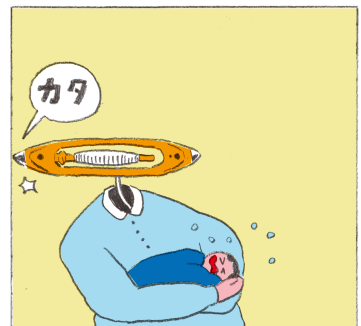
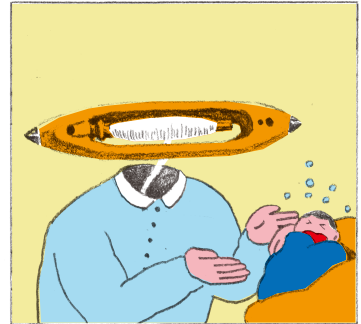
「つながれた記憶」



「珍しいおままごと」



「ねむりにつく音」



「機屋はうたがうまい」

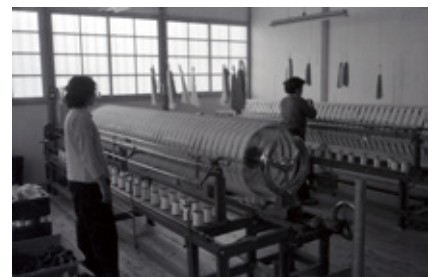
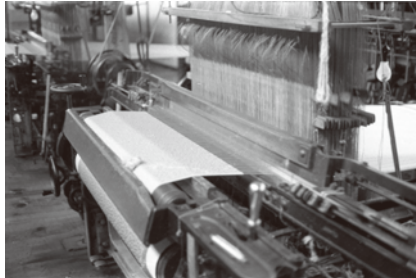
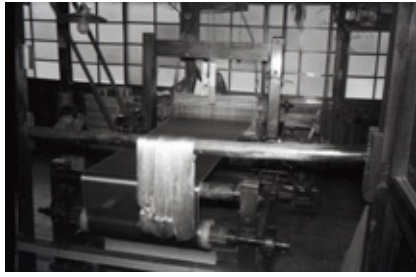


ぼくたちの見た景色

こちらの展示は、主に昭和30年代に撮影された20枚の写真を連続で投影しています。

当時、子供たちが見ていた風景から、織物を織る音や職人たちの大きな声、工場の匂いなどを想像してみてください。そして、その向こうに子供たちの笑い声が聞こえた方は、きっと『ぼくたちの織物語』の世界に少し入り込めたかもしれません。





ぼくたちの織物語展

主催：ふじさんミュージアム

企画制作：合同会社 OULO

リサーチ協力：フジ・アーカイブス（馬場亮河）

イラスト：平田基

イラスト印刷：Fab Cafe Fuji